

会議等名	平成 29 年度第 5 回海老名市学校施設再整備計画策定検討委員会
日 時	平成 29 年 12 月 15 日（金） 午後 2 時から午後 4 時 10 分まで
場 所	海老名市役所 3 階 政策審議室
出席者	<p>委員：葉養委員長、城向委員長職務代理、 加藤委員、萩原委員、上田委員、梅崎委員 （佐藤委員、三木委員欠席）</p> <p>事務局：岡田教育部長、金指教育部次長、吉川教育総務課長、 加賀施設係長、後藤副主幹、工藤主事</p> <p>傍聴者：なし</p>
概要	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 葉養委員長よりあいさつ</p> <p>3 議 題</p> <p>（1）前回の検討内容について 第 4 回検討委員会の議事録を確認</p> <p>（2）海老名市学校施設再整備計画 中間答申（案）について 〔資料 1〕に基づき事務局より説明</p> <p>《質疑・意見等》</p> <p>（委員）構成について、策定検討委員会の位置づけが弱いと感じる。また、この策定検討委員会と公共施設再編計画との関係を記載したほうがよい。22 頁に公共施設再編計画の記載があるが唐突である。</p> <p>公共施設再編計画で学校施設の方向性が検討され、さらに細かくこの策定検討委員会で検討していくものだとすることを明示しておかなければ、市民にはわかりづらいと思う。</p> <p>➤（事務局）第 1 回策定検討委員会の資料 4-1 に学校施設再整備計画のイメージがあるので、これを活用し位置づけについて記載する。</p> <p>（委員）中間答申案はハード面がメインであり、ソフト面の記載が少ない。 もっと検討するべきであると感じている。 最終答申では、この中間答申に、中長期計画を盛り込むということで良いか。</p> <p>➤（事務局）お見込みのとおり。中長期計画では今後考えられるソフト面についても盛り込んでいきたいと考えている。短期計画は劣化度に応じた施設整備計画と考えてほしい。</p> <p>（委員）ソフト面の方針が決まったときに、改修等を行った施設が無駄にならないようにしてもらいたい。</p> <p>➤（事務局）短期計画は随時見直しをしていくものである。今後児童生徒数の減少や複合化などが考えられるような施設の対応については、現段階で先送りしているが、中間答申では、劣化が激しく早期に対応しなければいけない施設を優</p>

先したいと考える。

(委員) 中間答申を随時見直しし、手戻りがないようにしてもらえればよい。

(委員) 中間答申ではソフト面が少ないが、ソフト面を考慮するために施設整備から行うのも手である。

(委員) いま頂いた意見で修正したものを、委員長・副委員長に一任頂いて教育長へ答申させていただくことでよろしいか。〔一同承認〕

委員には文言修正等含め、答申内容を改めて次回の会議で報告する。

### (3) 小中学校の適正規模について

〔別添3〕に基づき委員長より説明

≪質疑・意見等≫

(委員) 海老名市内の小学校は、近隣校と統合した場合通学距離が4kmを超えるところはあるか。

➤ (事務局) 組み合わせにもよるが、海老名市は南北に8.7km、東西に6.2kmであるため、4kmは超えないと思う。

#### 【学校規模について】

(委員) 12～18学級が良い。中学校の教員配置であれば15学級くらいがちょうど良い。中学校では教科担任制のため少人数教室は難しい。例えば国語教科の教員だけが増えても残りの単位は他の教員がシェアしなければならず余計に担当分が増える。

また、教室数は教育環境の空間として考えると、学級数が減ったことによって空き教室が増えても余裕があるわけではない。少人数教室を行う場合には足りないくらいである。365日中30日しか使わない部屋だとしても空間としての余裕が欲しい。

#### 【学区編成について】

(委員) 北部地域は統廃合等しなくとも学区変更等すれば良いが、南部地域は学区変更だけでは難しい。海老名市としてのまちづくりにも影響すると考える。

(委員) 南部地域は既に単級となる学年があるようだ。12学級未満の小規模校になると問題点や考えることが多い。

(委員) 中新田小学校区の団地では新入学児がどんどん減っているが、今泉小学校や有鹿小学校はめぐみ町や扇町の開発で増えており、海老名市内で差がありすぎるように感じる。

また、小学校の通学距離は4km以下が基準となっているようだが、統廃合などしたとき4km歩けるかは疑問である。

(委員) 地域的な格差があるようだ。委員の意見にもあったが、「学校施設」だけでなく、「都市計画」と併せて考えていかなければならない。

大胆な学区編成が必要であり、スクールバスの導入なども考えられる。

(委員) 小規模学校を存続させるためには財政とも議論が必要である。学校は地域コミュニティの拠点だが、残すための案が無くなったときは統廃合しかない。

(委員) 次回の会議で、海老名市の教員配置の資料を提示していただきたい。

(委員) 統廃合して大きい鉄筋コンクリート造の校舎を建てるより、現在の学校数のまま木造校舎にするほうがコスト的に低いのではないかな。

避難所などの関係で強固な建物でなければいけないということはわかるが、木造校舎であれば今後方向性が変わっていった場合、より柔軟に対応できるのではないかと考える。

公共施設再編計画では、施設面積を減らしていく目標だったと思う。

統廃合せずとも、児童生徒数にあった面積で建て直すという考えでも良いのではないかなと思う。

#### (4) 多機能化・複合化について

[資料2] について、各自確認いただくこととした。

4 その他  
特になし

5 閉 会

以 上